

名古屋市地域公共交通計画（令和6年3月策定）に記載している施策に基づき、取組状況を整理させていただきました。
事業の実施状況に基づき、事業評価等結果を作成します。（別添4参照）

実施施策	R6年度の主な取組	R7年度（案）
（１）公共交通による移動サービス水準の維持・確保		
① 求められる役割に合わせた公共交通の維持・確保 ②公共交通のわかりやすさ・使いやすさの向上と利用促進 ③ ガイドウェイバスへの自動運転技術の実装	・ 交通支援制度を活用した実証実験（西福田学区） 公共交通空白地のうち、昨年度にアンケート調査を行うなど地域が主体的に交通課題の解決に取り組んでいる西福田学区において、令和6年11月から令和7年2月にかけて、デマンド交通に係る実証実験を実施し、公共交通空白地における交通支援について検討を進めている。	➡ 実証運行実施
	・ WEBバスマップを作成中（名古屋市におけるバス路線図の作成） バスの利用促進をはかるため任意の停留所を選択し、その停留所を通過する系統の全てを地図上に表示する機能を「なごや乗り換えナビ」にて追加予定。	➡ 継続実施
	・ バリアフリールート情報提供 誰もが駅周辺の移動をスムーズに行えるための情報提供として、バリアフリーマップ公開中。	➡ 継続実施
	・ 自動運転技術の実装に向けた取組み 高架区間特有の課題（狭さ、急カーブ、横風など）解決に向け、専用実験車両の設計に着手を予定。	➡ 継続実施
	・ 【国等の動き】日本版ライドシェア開始（令和6年4月26日） 名古屋交通圏においても、道路運送法78条3号の許可による自家用車活用事業開始。	➡ 継続実施
（２）地域の実情に応じた移動手段の確保		
① 交通支援制度を活用した新たな移動手段の導入	・ 【再掲】交通支援制度を活用した実証実験（西福田学区） 公共交通空白地のうち、昨年度にアンケート調査を行うなど地域が主体的に交通課題の解決に取り組んでいる西福田学区において、令和6年11月から令和7年2月にかけて、デマンド交通に係る実証実験を実施し、公共交通空白地における交通支援について検討を進めている。	➡ 実証運行実施
（３）先進技術を活用したシームレスな移動環境の形成		
① AI技術を活用した新たな移動手段の導入検討	・ 【再掲】交通支援制度を活用した実証実験（西福田学区） 公共交通空白地のうち、昨年度にアンケート調査を行うなど地域が主体的に交通課題の解決に取り組んでいる西福田学区において、令和6年11月から令和7年2月にかけて、デマンド交通に係る実証実験を実施し、公共交通空白地における交通支援について検討を進めている。	➡ 実証運行実施
② MaaSの実現	・ mobi 千種区において本格運行開始。（令和6年12月6日）	➡ 継続実施
③ 環境にやさしい交通の促進	・ 「標準的なバス情報フォーマット」に準拠した情報の整備 名古屋市交通局において整備中。	➡ 継続実施
④ データを活用した移動実態調査・分析	・ 市バスにおいて、燃料電池バスの試行導入を行うと共に、なごや観光ルートバス「メーグル」においても燃料電池バスの運行を開始するなど、環境にやさしい車両への転換に取り組んでいる。	➡ 継続実施
⑤ 回遊性を高めるための新たな路面公共交通システム「SRT」の導入	・ 都心部におけるビッグデータを活用した移動実態調査・分析。	➡ 未定
	・ 令和7年度後半の「東西ルート（名古屋駅-栄間）」の運行開始に向けて、乗降・待合空間の整備や車両の製造・架装、関係機関との協議。	➡ 運行開始予定

※R7年度につきましては、予算措置状況やR6年度取組の検証結果等により変更する可能性があります。